

今 春来たりて、新たなる花々咲き競り...



〈次女の夫・貞之介〉 葛山信吾
 〈長女の夫・辰夫〉 磯部 勉
 〈板倉〉 川崎麻世
 〈御牧〉 橋爪 淳
 〈啓三郎〉 太川陽介



大橋芳枝



梅原妙美



仲手川由美



松本好永



有安多佳子

演出補:砂川幸子/執印久美子 装置:石井みつる 照明:塚本 悟 音楽:橋場 清 ヘアメイク:宮内宏明 衣裳:大戸美貴 効果:呉東 彰 振付:西川瑞扇
 邦楽:米川敏子 方言指導:大原穠子 メイクアップ:青木満寿子 制作:渡邊 隆 プロデューサー:田中利尚 製作統括:酒井喜一郎

1月14日(土) 10時より 20日(金) 17時まで

明治座 (M)-3 倶楽部

インターネット 先行予約開始

《電話先行予約》1月21日(土) 10:00~17:00

開演時間 11:00/16:00

料金(税込) S席 13,000円/A席 9,000円/B席 6,500円

2017年3月4日(土)~4月2日(日)

一般販売(電話・ネット予約) 1月22日(日) 10:00~
 窓口販売・予約引取開始 1月25日(水) 10:00~

※6歳以上有料/5歳以下のお子様のご入場はご遠慮ください。

	3/4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	4/1	2
	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
11:00	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
16:00	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

インターネット予約 席とりくん 検索
<https://web.meijiza.com/>

明治座チケットセンター 03-3666-6666

10名様以上のグループ観劇 予約受付中! 03-3660-3941

■各プレイガイドでもお取り扱いしております。

- チケットぴあ 0570-02-9999 (Pコード:454-756) <http://t.pia.jp/>
- イープラス <http://eplus.jp/>
- ローソンチケット 0570-000-407 (オペレーター対応) 0570-084-003 (Lコード:32756) <http://l-tike.com/>

- CNプレイガイド 0570-08-9999 (オペレーター対応) <http://www.cnplayguide.com/>
- JTBエンタメチケット JTB・JTB総合提携店 0570-030-311 (オペレーター対応)
- 楽天チケット <http://ticket.rakuten.co.jp/>

※0570で始まる電話番号は、一部の携帯電話・PHS・IP電話で
 お使いいただけません。

明治座

〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町2-31-1
 地下鉄○浜町駅(都営新宿線)
 ○人形町駅(日比谷線・都営浅草線)
 ○水天宮前駅(半蔵門線)

上演回数一五〇〇回

あてやかな紅枝垂の桜、
 どんな世の中になってもあの花だけは、
 咲き続けますのやろな。

糸田

雪

谷崎潤一郎 原作
 菊田一夫 脚本
 堀越真 潤色
 水谷幹夫 演出

2017年3月4日(土)~4月2日(日)

明治座

製作=東宝

次女・幸子
 水野真紀

長女・鶴子
 賀来千香子

四女・妙子
 壮一帆

三女・雪子
 紫吹 淳

儂くも美しい、それはまるで桜のように——。

戦争に向け、大きく時代が変わろうとしていた昭和十年代。それぞれの道を力強く生きる、四姉妹。
大切な人を思う気持ちが、心揺さぶる不朽の名作。

明治座三月公演

細雪

かすみゆき
杉子

谷崎潤一郎 原作
菊田一夫 脚本
堀越真 潤色
水谷幹夫 演出

(中公文庫版)



〈長女・鶴子〉
賀来千香子



〈次女・幸子〉
水野真紀



〈三女・雪子〉
紫吹淳



〈四女・妙子〉
壮一帆

真の美しさは、
時代が変われども…

物語 時代は昭和十年代、場所は大阪・船場。徳川の時代から続く木綿問屋・蒔岡商店。先代の父から譲り受けた家業の暖簾を守り、格式を重んじる本家の長女・鶴子。分家して神戸・芦屋に住まいを構え、妹たちを優しく見守る次女・幸子。数多の縁談を断り続け、婚期がおのいていく三女・雪子。ハイカラで活発、手に職をつけて自立の道を切り開いていく四女・妙子。

時代は戦争に向けて大きく動き出している中でも、優雅さを忘れない美しい四姉妹。それぞれの想い、それぞれの人生を歩んでゆく。そしてついに日中戦争勃発。本家の蒔岡商店は倒産。姉妹たちは自分たちの世界が古き良き時代、すでに過去になりつつあることを感じ始めている。それでも彼女たちは美しくあることをやめない。散るからこそ美しい、満開の紅枝垂の桜のように…。